

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日
ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

RENESAS TECHNICAL NEWS

No.M16C-104-0309

M32C/81、M32C/82、M32C/83 グループ

UiC1 レジスタ(i=0~4)に関する注意事項

分 類	ドキュメント正誤表 注意事項 ノウハウ その他	対 象	M32C/81 グループ M32C/82 グループ M32C/83 グループ
--------	----------------------------------	--------	--

1. 注意事項

CLKi端子とCTSi端子のレベルが“H”(注1)で、UiMRレジスタの設定を以下のいずれかのようにすると、UiC1レジスタのUIEREビットが“1”(パリティエラー信号出力許可)になります。

- ・ UiMRレジスタのSMD2~SMD0ビットを“0002”(シリアルI/Oは無効)から“1012”(UARTモード転送データ長8ビット)にする
- ・ SMD2~SMD0ビットを“0012”(クロック同期形シリアルI/Oモード)から“1002”(UARTモード転送データ長7ビット)にする
- ・ SMD2~SMD0ビットを“0012”(クロック同期形シリアルI/Oモード)から“1012”(UARTモード転送データ長8ビット)にする
- ・ SMD2~SMD0ビットを“0012”(クロック同期形シリアルI/Oモード)から“1102”(UARTモード転送データ長9ビット)にする
- ・ SMD2~SMD0ビットを“0102”(I²Cモード)から“1012”(UARTモード転送データ長8ビット)にする

UIEREビットが“1”(パリティエラー信号出力許可)の状態、UiMRレジスタのPRYEビットを“1”(パリティ許可)にした場合、受信時にパリティエラーが発生すると、TxDi端子から“L”が出力されます。

注1. CLKi、CTSiとして使用していない場合でも、端子レベルが“H”のときはこの条件に該当します。

2. 対策

UiMRレジスタを設定した後、UIEREビットを設定してください。

CTSi、CLKi と端子を共用する機能一覧

	CTSi	CLKi
UART0	P60 / $\overline{\text{CTS0}}$ / $\overline{\text{RTS0}}$ / $\overline{\text{SS0}}$	P61 / CLK0
UART1	P64 / $\overline{\text{CTS1}}$ / $\overline{\text{RTS1}}$ / $\overline{\text{SS1}}$ / OUTC21 / ISCLK2	P65 / CLK1
UART2	P73 / TA1IN / $\overline{\text{V}}$ / $\overline{\text{CTS2}}$ / $\overline{\text{RTS2}}$ / $\overline{\text{SS2}}$ / OUTC10 / ISTxD1 / BE1OUT	P72 / TA1OUT / V / CLK2
UART3	P93 / DA0 / TB3IN / $\overline{\text{CTS3}}$ / $\overline{\text{RTS3}}$ / $\overline{\text{SS3}}$	P90 / TB0IN
UART4	P94 / DA1 / TB4IN / $\overline{\text{CTS4}}$ / $\overline{\text{RTS4}}$ / $\overline{\text{SS4}}$	P95 / ANEX0